

197名が遺愛女子高校を巣立っていきました！！

3月3日（土）に遺愛女子高等学校の卒業式が行われました。創立以来第120回目の卒業式でした。第1回目はたった1人の卒業式でしたが、これまで今回の卒業生197名を含めて2万3788名が遺愛で学び、巣立って行きました。

来賓の方々をはじめ、多くの保護者の皆様に出席していただき、礼拝として厳かに行われました。遺愛では、卒業生1人1人に直接、校長から手渡します。一人一人とても良い表情をして卒業証書を受け取っていたのが印象的でした。卒業式の答辞は、英語科の高杉菜月さんがしました。自らの経験に根ざしたとても素晴らしい答辞で、後輩達に元気と勇気を与えるものでした。

一部を紹介します。

…私は高校の3年間、剣道部に所属し、生徒会役員も務め、とても充実した日々を過ごすことができました。以前の私は、とても内向的で、学校生活に楽しみを見い出せず、自分の殻に閉じこもってばかりいました。そんな時、ある先生から「もう少し遠くから自分を見つめてみなさい。」と言われたことをきっかけに、まわりを見始めるようになりました。すると、部活動と生徒会と勉強のバランスがなかなかとれず、いつも悩んでいた私のすぐそばには、自分の数十倍、数百倍努力している先輩、後輩、そして同期の皆さんの姿がありました。そのような皆さんの姿を目の前にした時、自分を情けなく感じ、変わりたい！と思うようになりました。その決意と皆さんの姿を原動力に、皆さんと同じように輝けるよう、がむしゃらに走り抜け、今日、充実した気持ちで、この卒業の日を迎えることができました。卒業を迎えた今、はっきりとわかったことがあります。それは自分を変えるきっかけは、いつでも、どこにでも存在していて、自分を変えるためなら、人は思っている以上の力を発揮することができる、ということです。…

ラインホルト・ニーバーというアメリカの神学者の

有名な「祈り」があります。

**「神よ、変えることのできるものについて、
それを変えるだけの勇気をわれらに与えたまえ。
変えることのできないものについては、
それを受けいれるだけの冷静さを与えたまえ。
そして、変えることのできるものと、変えることのできないものとを、識別する知恵を与えたまえ。」**

多くの卒業生が、この3年間あるいは6年間を通し、自分を変える勇気をもって、遺愛の生活をおくり、見事に成長し巣立っていきました。



2012年3月6日（火）